

式 辞

やわらかな日差しに、桜のつぼみもふくらみ始め、春の訪れを感じるこの佳き日に、常総市教育委員会生涯学習課長 土井 義行様、教育振興会副会長 石塚 克人様をはじめ、多くのご来賓の皆様にご臨席いただき、第七十二回、卒業証書授与式が、挙行できますことを心より感謝申し上げます。

十名の卒業生の皆さん、「卒業おめでとう」。本当に大きくなりました。出会ったとき、あなたたちは四年生になったばかり。元気いっぱいでした。五年生になり、次第に高学年らしくなっていき、最高学年になると、「あこがれ 愛される 六年生」に成長していきました。いろいろな活動に取り組みながら、責任をもって役割を果たしてくれました。

四月、「一人一人の色が輝く クラスが輝く まわりのみんなを輝かせる」、学年だより「虹」と共に最高学年としての生活がスタートしました。

市陸上記録会では、心を一つに「最高の絆」で結ばれたチーム大花羽小でした。百メートル走での泰生くん、千メートル走での陸くんの最後まで諦めない必死な走りには、心が熱くなり、大きな声を出し応援する私がそこにはいました。

修学旅行では、「高めよう自分たちの力 深めよう仲間との絆」を合い言葉に、力を合わせて楽しく活動することができました。はじけるような笑顔は、今でも心に残っています。

夏が近づくにつれ、最高学年という自覚が身に付いてきました。登校班の班長として、下級生に優しく接してくれた沙季さん。責任感のある優しい子だなといつも感心させられました。四年生の時から見ている私にとって、お姉さんの顔になりました。

秋になって、運動会、ふれあい祭りと大きな行事があり、みなさんは、大いに活躍してくれました。応援団長として、団をまとめるだけでなく、入場行進では校旗を大切に運んでくれた実来さん、とてもかっこよかったです。また、会場にいるみんなが聞きやすいように放送していた晃大くん、すばらしい才能を発見し、うれしかったことを覚えています。暑い中、一生懸命に練習した鼓笛では、見事に指揮をやり遂げた彩海さん、私には想像できないくらい練習しことでしょう。本当に、がんばったね。

市音楽会での合唱も六年生の「底力」を感じました。今も心の中に、「君のふるさと」「僕のふるさと」「ここはふるさと」と美しい歌声が響きわたっています。毎日、毎日ピアノと向き合った心さんの伴奏にみんなの「ふるさと大花羽」への思いが重なり、聴いていて涙がこぼれてきました。

五年、六年と大花羽小の代表として、「子どもフォーラム」に参加し、自分の意見を伝えることができた楓花さん、読んだ本の紹介や大好きな韓国の様子を上手に伝えることができました。一緒に下校する時は、話相手をしてくれてありがとう。楽しかったです。

学校のリーダーとして、たてわり班活動、委員会活動など、様々な場面で、先頭に立って下級生をリードする、優しくたのもしい最上級生でした。特に、保健委員会委員長として活躍した愛良さん。健康集会での「良い姿勢で生活しよう」の発表では、わかりやすく説明することができました。その姿は、下級生のお手本であり、あこがれでした。

三学期の始業式では、今年の一文字「力」を発表することになった優一郎くん。学校のため、友達のため、下級生のために自ら考え、行動する力をつけたい。本当に優しい子だなと感心しました。

皆さんの日々の活動が大花羽小の日常を支えていました。百二十九年の伝統のもと、「誇れる学校づくり」に向かって成長することができました。本当に、ありがとうございました。

さて、卒業生のみなさんが、我が「ふるさと大花羽」を思い、イメージした言葉を覚えていますか。

私たちの ふるさと 大花羽
笑顔になれるところ
悲しみを乗り越えられる
安心できるところ 夢が語れる
私たちの ふるさと 大花羽
大好き

一つ一つの言葉に我が「ふるさと大花羽」への熱い、熱い思いが伝わってきます。

将来この大花羽で活躍できるように、また、大花羽を離れて生活するようになって、大花羽をいつも思う、「ふるさとを愛し、誇りに思う」そんな大人に成長してほしいと願っています。

最後になりましたが、保護者の皆様、本日は、誠におめでとうございます。お子様が立派に成長した姿に、感慨もひとしおのことと思います。

また、保護者の皆様には、長い間、本校の教育に、ご協力いただき、ありがとうございました。

今後とも卒業生の「誇れる母校」として支えてください

ますよう、お願い申し上げます。

そして長きにわたり、本校の教育に温かいご理解ご支援をお寄せいただいた地域の方々に、全職員とともに心から感謝し、これからも「たいせつな」子どもたちを末永く見守っていただけますようお願い申し上げます。

それでは、大好きな卒業生の皆さん、さようならそしてありがとう、再び会えるその時まで。「伝説に残る すてきな卒業生」になるときが来ました。この伝統ある大花羽小学校のそして地域の自慢すべき卒業生の皆さん、一人一人の輝かしい未来を心から応援しています。

皆さんが「夢」に向かって、羽ばたいていく姿を心に描きつつ、私の式辞といたします。

平成三十一年 三月十九日

常総市立大花羽小学校長 蛭原 浩一